

## 資料 3

# 適正な学校規模の考え方

## (1) 国の基準

学校規模は学級数や児童生徒数などによって表すことができますが、法令では学校規模を学級数で示しています。国の基準では、

小学校の標準学級数を「12 学級以上 18 学級」(学校教育法施行規則第 41 条)

中学校の標準学級数を「12 学級以上 18 学級」(同規則第 79 条)

としています。(ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。としています)

また、1 学級の児童生徒数の上限を

「40 人」(公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律第 3 条)

としています。

ただし、2 つの学年で編成する学級 複式学級の場合は、

小学校で「16 人」(1 年生を含む場合は 8 人)

中学校で「8 人」

を標準としています。

なお、適正規模の条件として小学校の通行距離を 4km 以内、中学校をおおむね 6km 以内(義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第 4 条)としています。

### ■国の基準

○小学校の標準学級数：12 学級～18 学級(学年 2 学級～3 学級)

○中学校の標準学級数：12 学級～18 学級(学年 4 学級～6 学級)

○1 学級あたりの標準人数：40 人以下

複式学級 小学校：16 名(1 年生児童を含む場合は 8 人)

複式学級 中学校：8 名

○通学距離 小学校：おおむね 4km 以内 中学校：おおむね 6km 以内

※ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。としています。

## (2) 県の基準

山梨県では、山梨県小・中学校適正規模検討報告書(平成 19 年 3 月)により、

小学校では、クラス替えの可能な 12 学級以上の規模が望ましい。

中学校では、クラス替えの可能な 6 学級以上の規模が望ましい。

複式学級を解消できる規模が望ましい。

としています。

学級規模では、20 人程度以上の規模が望ましい。

となっています。

平成 20 年度より「きめ細やかな指導・はぐくみプラン」を導入しており、

小学校 1・2 年生を対象とした 30 人学級編成

小学校 3～6 年生を対象とした 35 人学級編成

中学校 3～6 年生を対象とした 35 人学級編成

により確かな学力の育成と個性や創造性を生かす教育の充実を図っています。

はぐくみプランにおいては、

学年別 学級編成に加え、アクティブプラスの選択制となり、

アクティブプラスでは、学級数によって常勤教員または非常勤講師が加配されます。

(1) 加配による指導時数の増加は、常勤一人当たり 20 時間以上、非常勤一人当たり 10 時間以上とする。

(2) 増加時数の 1/2 以上を基本教科に充てることを原則とする。

※非常勤講師の勤務時間は週 20 時間以内を原則とし、年間 700 時間以内を厳守することとする。

なお、通学区域に関しては通学距離及び通学時間の児童生徒の心身に与える影響、児童生徒の安全、学校の教育活動の実施への影響を十分検討し、配慮することが必要であるとしています。

■県の基準

○小学校の標準学級数：12 学級以上

○中学校の標準学級数：6 学級以上

○1 学級あたりの標準人数

小学校 1・2 年生：20 人程度以上 30 人以下

小学校 3 年～中学校 3 年：20 人程度以上 35 人以下

※アクションプランとの選択制になります。(別添え 資料)

○複式学級を解消できる規模が望ましい。

○通学距離 児童生徒への心身、安全、教育活動への影響に配慮する。

## 小規模学校、大規模学校のメリット・デメリット

	小規模校		大規模校	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
学習面	児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細やかな指導が行いやすい	集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい	集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい	全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい
	学校行事や部活等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい	1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学校間の相互啓発がなされにくい	運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい	学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい
		運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい	中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい	
		中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい	児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい	
		児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい		
		部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい		
生活面	児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい	クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい	クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい	学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい
	異学年間の縦の交流が生まれやすい	集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある	切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい	全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい
	児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細やかな指導が行いやすい	切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい	学校全体での組織的な指導体制を組みやすい	
		組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい		
学校運営面 財政面	全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい	教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい	教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい	教職員相互の連絡調整が図りづらい
	学校が一体となって活動しやすい	学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい	学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい	特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある
	施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい	一人に複数の校務分掌が集中しやすい	校務分掌を組織的に実行しやすい	
		教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい	出張、研修等に参加しやすい	
		子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい	子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい	
その他	保護者や地域社会との連携が図りやすい	PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい	PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい	保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい

※現在、南アルプス市の小規模校では小規模校のマイナス面をプラス面に変えていく努力をしています。

少人数学級・アクティブに係る加配 早見表

表1: 小1年

児童数	A		B			D	
	標準 学級数	はぐくみ			77777		
		30人 学級数	増加 学級数	加配	対象 学級数	加配	
1 ~ 30	1				1	0.5	
31 ~ 35	1				1	0.5	
36 ~ 60	2				1	0.5	
61 ~ 62	2	3	1	1	2	1.0	
63 ~ 70	2	3			1	0.5	
71 ~ 90	3	3			2	1.0	
91 ~ 92	3	4	1	1	3	1.5	
93 ~ 105	3	4			3	1.5	
106 ~ 120	4	4			3	1.5	
121 ~ 122	4	5	1	1	4	2.0	
123 ~ 124	4	5			4	2.0	
125 ~ 140	4	5			4	2.0	
141 ~ 150	5	5			4	2.0	
151 ~ 152	5	6	1	1	5	2.5	
153 ~ 154	5	6			5	2.5	
155 ~ 175	5	6			5	2.5	
176 ~ 180	6	6			6	3.0	
181 ~ 182	6	7	1	1	6	3.0	
183 ~ 184	6	7			6	3.0	
185 ~ 186	6	7			6	3.0	
187 ~ 210	6	7			6	3.0	
211 ~ 212	7	8	1	1	7	3.5	
213 ~ 214	7	8			7	3.5	
215 ~ 216	7	8			7	3.5	
217 ~ 240	7	8			7	3.5	

表2: 小2年

児童数	A		B			D	
	標準 学級数	はぐくみ			77777		
		30人 学級数	増加 学級数	加配	対象 学級数	加配	
1 ~ 30	1				1	0.5	
31 ~ 35	1				1	0.5	
36 ~ 40	1	2	1	1	2	1.0	
41 ~ 60	2				1	0.5	
61 ~ 62	2	3	1	1	2	1.0	
63 ~ 80	2	3			2	1.0	
81 ~ 90	3				2	1.0	
91 ~ 92	3	4	1	1	3	1.5	
93 ~ 120	3	4			3	1.5	
121 ~ 122	4	5	1	1	4	2.0	
123 ~ 124	4	5			4	2.0	
125 ~ 150	4	5			4	2.0	
151 ~ 152	4	6	2	2	5	2.5	
153 ~ 154	4	6			5	2.5	
155 ~ 180	4	6			5	2.5	
181 ~ 182	5	6	1	1	6	3.0	
183 ~ 184	5	6			6	3.0	
185 ~ 200	5	6			6	3.0	
201 ~ 210	6	7	1	1	7	3.5	
211 ~ 240	6	7			7	3.5	

表3: 小3~6年

児童数	A		B			D	
	標準 学級数	はぐくみ			77777		
		35人 学級数	増加 学級数	加配	対象 学級数	加配	
1 ~ 35	1				1	0.5	
36 ~ 40	1				1	0.5	
41 ~ 70	2				1	0.5	
71 ~ 72	2	3	1	1	2	1.0	
73 ~ 80	2	3			2	1.0	
81 ~ 105	3				2	1.0	
106 ~ 107	3	4	1	1	3	1.5	
108 ~ 120	3	4			3	1.5	
121 ~ 140	4				3	1.5	
141 ~ 142	4	5	1	1	4	2.0	
143 ~ 144	4	5			4	2.0	
145 ~ 160	4	5			4	2.0	
161 ~ 175	5	5			4	2.0	
176 ~ 177	5	6	1	1	5	2.5	
178 ~ 179	5	6			5	2.5	
180 ~ 200	5	6			5	2.5	
201 ~ 210	6	6			5	2.5	
211 ~ 212	6	7	1	1	6	3.0	
213 ~ 214	6	7			6	3.0	
215 ~ 216	6	7			6	3.0	
217 ~ 240	6	7			6	3.0	

表4: 中学校

生徒数	A		B			D	
	標準 学級数	はぐくみ			77777		
		35人 学級数	増加 学級数	加配	対象 学級数	加配	
1 ~ 35	1				1	0.5	
36 ~ 40	1				1	0.5	
41 ~ 70	2				1	0.5	
71 ~ 72	2	3	1	1.5	2	1.0	
73 ~ 80	2	3			2	1.0	
81 ~ 105	3				2	1.0	
106 ~ 107	3	4	1	1.5	3	1.5	
108 ~ 120	3	4			3	1.5	
121 ~ 140	4				3	1.5	
141 ~ 142	4	5	1	1.5	4	2.0	
143 ~ 144	4	5			4	2.0	
145 ~ 160	4	5			4	2.0	
161 ~ 175	5	5			4	2.0	
176 ~ 177	5	6	1	1.5	5	2.5	
178 ~ 179	5	6			5	2.5	
180 ~ 200	5	6			5	2.5	
201 ~ 210	6	6			5	2.5	
211 ~ 212	6	7	1	1.5	6	3.0	
213 ~ 240	6	7			6	3.0	
241 ~ 246	7				6	3.0	
247 ~ 248	7	8	1	1.5	7	3.5	
249 ~ 280	7	8			7	3.5	